

SOPHOS

Cybersecurity
made
simple.

Sophos Enterprise Console スタートアップガイド

製品バージョン: 5.5

目次

このガイドについて.....	1
システム要件.....	2
Linux コンピュータの保護.....	3
手動による Sophos Anti-Virus の新規インストール.....	3
インストールパッケージの作成.....	3
インストールパッケージを使用した Sophos Anti-Virus のインストール.....	5
UNIX コンピュータの保護.....	6
手動による Sophos Anti-Virus の新規インストール.....	6
インストールパッケージの作成.....	7
インストールパッケージを使用した Sophos Anti-Virus のインストール.....	7
ネットワークのセキュリティの状態の確認.....	9
補足: mkinstpkg 用のコマンドラインオプション.....	10
テクニカルサポート.....	12
利用条件.....	13

1 このガイドについて

このガイドでは、Sophos Anti-Virus を Linux や UNIX にインストールして、Sophos Enterprise Console で管理する方法について説明します。このガイドは、「Sophos Enterprise Consoleアドバンス スタートアップガイド」で説明されている管理ツールがインストールしてあることを前提に書かれています。

2 システム要件

システム要件の一覧は、ソフォス Web サイトの「システム要件」ページを参照してください (<http://www.sophos.com/ja-jp/products/all-system-requirements.aspx>)。

言語対応など上記以外のシステム要件の詳細は、リリースノートの「追加情報」という項目を参照してください。

3 Linux コンピュータの保護

インストールパッケージを使用して Linux コンピュータを保護する手順は次のとおりです。

- Sophos Anti-Virus を 1台の Linux サーバーに手動で新規インストールする。
- インストールパッケージを作成する。
- Sophos Anti-Virus を他の Linux コンピュータにインストールする。

3.1 手動による Sophos Anti-Virus の新規インストール

ここでの説明は、「Sophos Enterprise Consoleアドバンス スタートアップガイド」の説明に従い、Sophos Anti-Virus をダウンロードしてあることを前提としています。

1. Sophos Anti-Virus のダウンロード先の共有フォルダ (通称、「インストーラの場所」) のパスを次のようにして表示します。
 - a) Enterprise Console で、「表示」メニューの「インストーラの場所」をクリックします。
「インストーラの場所」ダイアログボックスで、「場所」カラムに、各 OS ごとのインストーラの場所のパスが表示されます。
 - b) パスをメモします。
2. root として Linux サーバーにログオンします。
3. インストーラの場所をマウントします。
4. インストーラの場所に移動します。
5. 次のコマンドでインストールスクリプトを実行します。
./install.sh
リモート管理の設定画面で、リモート管理を有効に設定します。
インストール完了後、Enterprise Console の「グループ外のコンピュータ」フォルダに Linux サーバーが表示されます。
6. Enterprise Console で Linux サーバーを配置する新しいグループを作成します (作成済みでない場合)。
7. 「グループ外のコンピュータ」フォルダから新しいグループにサーバーをドラッグします。
8. デフォルトで当該のグループには、デフォルトのアップデートポリシーが既に適用されています。ポリシーを変更する必要がある場合は、Enterprise Console ヘルプを参照してください。
9. Linux サーバーで次のコマンドを実行して最初のアップデートを実行します。
/opt/sophos-av/bin/savupdate

次に、インストールパッケージを作成します。

3.2 インストールパッケージの作成

mkinstpkg というスクリプトを使用して、社内のエンドユーザー用にインストールパッケージを作成することができます。このスクリプトを実行すると、各 Linux コンピュータに Sophos Anti-Virus をインストールする際の設定項目が画面に表示され、ここで情報を入力すると、インストールパッケージに取り込まれます。作成したインストールパッケージを使用して、エンドユーザーが

ソフトウェアをインストールすると、正しいアップデート元やアカウント情報が自動的に設定されます。パッケージは、tar、RPM または deb 形式で作成できます。

注

deb 形式は、Sophos Anti-Virus バージョン 9.11 以降で対応しています。

注

mkinstpkg スクリプトの使用は、組織内のみ限定されています。詳細は mkinstpkg スクリプトで表示される使用許諾契約、および利用規約を参照してください。

注

ここでの手順はパッケージの形式を指定する方法について説明するものです。使用可能な他のオプションの詳細は、[補足: mkinstpkg 用のコマンドラインオプション](#) (p. 10)を参照してください。

インストールパッケージを作成する方法は次のとおりです。

1. Sophos Anti-Virus をインストールした Linux サーバーの /opt/sophos-av/update/ ディレクトリに移動します。
2. 現在のディレクトリにパッケージを作成するには、次のいずれかを実行します。

- savinstpkg.tgz という名前の tar 形式のインストールパッケージを作成するには、次のコマンドを実行します。
./mkinstpkg
- savinstpkg-0.0-1.i586.rpm という名前の RPM 形式のインストールパッケージを作成するには、次のコマンドを実行します。
./mkinstpkg -r

注

RPM の設定によってはファイル名が多少異なる場合もあります。

- savinstpkg.deb という名前の deb 形式のインストールパッケージを作成するには、次のコマンドを実行します。
./mkinstpkg -D

注

deb 形式は、Sophos Anti-Virus バージョン 9.11 以降で対応しています。

3. Enterprise Console によるコンピュータの管理についてメッセージが表示されたら、管理を有効にするように選択します。
4. 場所を入力するメッセージが表示されたら、インストーラの場所 (パッケージを使用する Linux コンピュータから見た) を入力します。

次に、作成したインストールパッケージを使用して Sophos Anti-Virus をインストールします。

3.3 インストールパッケージを使用した Sophos Anti-Virus のインストール

Sophos Anti-Virus をパッケージからインストールするには、次の 2 とおりの方法があります。

- 各コンピュータに手動でインストールする。この方法は、RPM と tar のどちらの形式のパッケージでも使用できます。
- ネットワーク上のコンピュータに自動的にインストールする。この方法は、パッケージが RPM 形式の場合のみに使用できます。

3.3.1 Sophos Anti-Virus の手動インストール

1. 適宜、任意のツールで Sophos Anti-Virus をインストールするコンピュータにインストールパッケージをコピーします。
2. 各コンピュータに root としてログインします。
3. 一時ディレクトリにインストールパッケージを保存し、保存先のディレクトリに移動します。
4. 次のいずれかの手順を実行してください。

- tar 形式のパッケージをインストールするには、次のように入力します。

```
tar -zxvf savinstpkg.tgz
./sophos-av/install.sh
```
- RPM 形式のパッケージをインストールするには、次のように入力します。

```
rpm -i <RPM パッケージ名>
```
- deb 形式のパッケージをインストールするには、次のように入力します。

```
dpkg -i <deb パッケージ名>
```

サーバーから必要なファイルがコピーされ、Sophos Anti-Virus がインストールされます。今後、インストーラの場所が更新されるたびに、Sophos Anti-Virus が自動アップデートされます。

また、Sophos Anti-Virus からソフォスに製品やプラットフォームの使用情報が送信されます。送信された情報は製品開発に役立てられます。詳細は、[ソフォス サポートデータベースの文章 121214](#) を参照してください。

3.3.2 Sophos Anti-Virus の自動インストール

- Sophos Anti-Virus をインストールパッケージから自動インストールするには、リモートインストールを実行できる OS 付属の管理ツールを使用してください。
詳細は、該当するツールのドキュメントを参照してください。

インストールが完了すると、Sophos Anti-Virus は自動的に起動し、「インストーラの場所」に更新ファイルが取り込まれるたびに自動で更新されます。

また、Sophos Anti-Virus からソフォスに製品やプラットフォームの使用情報が送信されます。送信された情報は製品開発に役立てられます。詳細は[サポートデータベースの文章 121214](#) を参照してください。

4 UNIX コンピュータの保護

UNIX コンピュータを保護する場合は、インストールパッケージを使用する必要があります。この手順は次のとおりです。

- Sophos Anti-Virus を 1台の UNIX サーバーに手動で新規インストールする。
- インストールパッケージを作成する。
- Sophos Anti-Virus を他の UNIX コンピュータにインストールする。

注

日本語 AIX 環境では、インストール時のみ「LANG=C」と指定する必要があります。

4.1 手動による Sophos Anti-Virus の新規インストール

ここでの説明は、「Sophos Enterprise Consoleアドバンス スタートアップガイド」の説明に従い、Sophos Anti-Virus をダウンロードしてあることを前提としています。

注

Sophos Anti-Virus がインストールされている UNIX サーバーに、バージョン 9 をインストールするには、先にバージョン 4 をアンインストールしてください。詳細は、バージョン 4 用の「[Sophos Anti-Virus for UNIX/Linux スタートアップガイド](#)」を参照してください。

1. Sophos Anti-Virus のダウンロード先の共有フォルダ (通称、「インストーラの場所」) のパスを次のようにして表示します。
 - a) Enterprise Console で、「表示」メニューの「**インストーラの場所**」をクリックします。「**インストーラの場所**」ダイアログボックスで、「場所」カラムに、各 OS ごとのインストーラの場所のパスが表示されます。
 - b) パスをメモします。
2. root として UNIX サーバーにログオンします。
3. インストーラの場所をマウントします。
4. インストーラの場所に移動します。
5. 次のコマンドでインストールスクリプトを実行します。
./install.sh
リモート管理の設定画面で、リモート管理を有効に設定します。
インストール完了後、Enterprise Console の「**グループ外のコンピュータ**」フォルダに UNIX サーバーが表示されます。
6. Enterprise Console で UNIX サーバーを配置する新しいグループを作成します (作成済みでない場合)。
7. 「**グループ外のコンピュータ**」フォルダから新しいグループにサーバーをドラッグします。
8. デフォルトで当該のグループには、デフォルトのアップデートポリシーが既に適用されています。ポリシーを変更する必要がある場合は、Enterprise Console ヘルプを参照してください。
9. UNIX サーバーで次のコマンドを実行して最初のアップデートを実行します。
/opt/sophos-av/bin/savupdate

次に、インストールパッケージを作成します。

4.2 インストールパッケージの作成

mkinstpkg というスクリプトを使用して、社内のエンドユーザー用にインストールパッケージを作成することができます。このスクリプトを実行すると、各 UNIX コンピュータに Sophos Anti-Virus をインストールする際の設定項目が画面に表示され、ここで情報を入力すると、インストールパッケージに取り込まれます。作成したインストールパッケージを使用して、エンドユーザーがソフトウェアをインストールすると、正しいアップデート元やアカウント情報が自動的に設定されます。パッケージは、tar 形式で作成できます。

注

mkinstpkg スクリプトの使用は、組織内のみ限定されています。詳細は mkinstpkg スクリプトで表示される使用許諾契約、および利用規約を参照してください。

インストールパッケージを作成する方法は次のとおりです。

1. Sophos Anti-Virus をインストールした UNIX サーバーの /opt/sophos-av/update/ ディレクトリに移動します。
2. savinstpkg.tar という名前の tar 形式のインストールパッケージを作成するには、次のコマンドを入力します。
./mkinstpkg
3. Enterprise Console によるコンピュータの管理についてメッセージが表示されたら、管理を有効にするように選択します。
4. 場所を入力するメッセージが表示されたら、インストーラの場所 (パッケージを使用する UNIX コンピュータから見た) を入力します。

次に、作成したインストールパッケージを使用して Sophos Anti-Virus をインストールします。

4.3 インストールパッケージを使用した Sophos Anti-Virus のインストール

Sophos Anti-Virus をパッケージからインストールするには、次の 2 とおりの方法があります。

- 各コンピュータに手動でインストールする。
- ネットワーク上のコンピュータに自動的にインストールする。

4.3.1 Sophos Anti-Virus の手動インストール

1. 適宜、任意のツールで Sophos Anti-Virus をインストールするコンピュータにインストールパッケージをコピーします。
2. 各コンピュータに root としてログインします。
3. 一時ディレクトリにインストールパッケージを保存し、保存先のディレクトリに移動します。
4. tar 形式のパッケージをインストールするには、次のように入力します。
tar -xvf savinstpkg.tar
./sophos-av/install.sh

サーバーから必要なファイルがコピーされ、Sophos Anti-Virus がインストールされます。今後、インストーラの場所が更新されるたびに、Sophos Anti-Virus が自動アップデートされます。

また、Sophos Anti-Virus からソフォスに製品やプラットフォームの使用情報が送信されます。送信された情報は製品開発に役立てられます。詳細は、[ソフォス サポートデータベースの文章 121214](#) を参照してください。

4.3.2 Sophos Anti-Virus の自動インストール

- Sophos Anti-Virus をインストールパッケージから自動インストールするには、リモートインストールを実行できる OS 付属の管理ツールを使用してください。
詳細は、該当するツールのドキュメントを参照してください。

インストールが完了すると、Sophos Anti-Virus は自動的に起動し、「インストーラの場所」に更新ファイルが取り込まれるたびに自動で更新されます。

また、Sophos Anti-Virus からソフォスに製品やプラットフォームの使用情報が送信されます。送信された情報は製品開発に役立てられます。詳細は[サポートデータベースの文章 121214](#) を参照してください。

5 ネットワークのセキュリティの状態の確認

でネットワークのセキュリティの状態を確認するには次の手順を実行します。

メニューバーの「**ダッシュボード**」アイコン (ダッシュボードが表示されていない場合は) をクリックします。

ダッシュボードには次の情報が表示されます。

- 「警告を発したコンピュータ」の台数。
- 「最新版が適用されていないコンピュータ」の台数。
- 「ポリシーと異なるコンピュータ」の台数。

6 補足: mkinstpkg 用のコマンドラインオプション

mkinstpkg ツールは、エンドユーザーが Sophos Anti-Virus をインストールできる配布パッケージを作成します。

デフォルトのインストール場所は /opt/sophos-av/update です。

mkinstpkg で利用可能なすべてのコマンドラインオプションは次のとおりです。オプションの末尾に「=」が付いている場合は引数を指定できます。

オプション	説明
-d,--debug	Sophos Anti-Virus インストーラを実行するときに --debug オプションを指定します。
-h,--help	ヘルプを表示します
-o=,--output=	インストールパッケージの出力先を指定します
-r,--rpm	RPM パッケージをビルドします
-D,--deb	deb パッケージをビルドします
--tar	tar ファイルをビルドします (デフォルト)
--update-proxy-address=	Sophos Anti-Virus を HTTP 経由でインストールするときに使用するプロキシのアドレスを指定します
--update-proxy-username=	Sophos Anti-Virus を HTTP 経由でインストールするときに使用するプロキシのユーザー名を指定します
--update-proxy-password=	Sophos Anti-Virus を HTTP 経由でインストールするときに使用するプロキシのパスワードを指定します
--extra-options=	Sophos Anti-Virus をインストールする際の追加オプション。たとえば次のように入力します。--extra-options="--preferFanotify"
-v,--verbose	Sophos Anti-Virus インストーラを実行するときに --verbose オプションを指定します。
--rpm-version=	RPM パッケージをビルドする場合に RPM のバージョン番号を指定します
--rpm-release=	RPM パッケージをビルドする場合に RPM のリリース番号を指定します
--sophos	自社のサーバーからではなく、ソフォスのサーバーからアップデートを実行します

オプション	説明
--update-type=	Sophos Anti-Virus のアップデート元を指定します。ソフォスからアップデートする場合は「s」を指定し、自社サーバーからアップデートする場合はそれ以外のキーを入力します。
--sec-group=	Sophos Anti-Virus がインストールされたときにコンピュータが属する Enterprise Console のグループ

7 テクニカルサポート

ソフォス製品のテクニカルサポートは、次のような形でご提供しております。

- ユーザー コミュニティ サイト「Sophos Community」(英語) (community.sophos.com/) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォス サポートデータベースのご利用。 www.sophos.com/ja-jp/support.aspx
- 製品ドキュメントのダウンロード。 www.sophos.com/ja-jp/support/documentation.aspx
- オンラインでのお問い合わせ。 <https://secure2.sophos.com/ja-jp/support/contact-support/support-query.aspx>

8 利用条件

Copyright © 2018 .All rights reserved.この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

、および は、および の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。